

## 二上山だより

### さあ！ ササユリの季節です

雄岳への道で、雌岳の笹原で、そして祐泉寺のそばでも、ササユリが咲き始めました。

作家田中澄江さんはその著書「花の百名山」で「二上山雄岳=テイショウソウ（キク科）」の一文を書かれています。

確かにこの山にテイショウソウは多く、また他の花が無くなった頃に楚々として路傍を飾るテイショウソウは思わず声をかけたくなる花ですが、四季を通じて「二上山を代表する花」となると、矢張り筆頭はササユリでしょう。

梅雨にはいり、暑苦しさに悩まされる頃、林のそばでさりげなく咲いているササユリを見るとホッとします。

それが微風に揺れていれば尚更です。



ササユリ（笹百合・ユリ科ユリ属）

### 涼感ただよわせて小紫陽花

今の季節に合わせたようにコアジサイが小さな花のかたまりをたわわにつけています。淡いブルーの花の色といい、光沢のある濃緑の葉っぱといい、いかにも涼しげ。

やや暗い谷間をたどる登山道に風でも呼んでくれるかの趣があり、夏の二上山に欠かせない植物です。（ユキノシタ科アジサイ属）



上 コアジサイ

### 鈴の音が聞こえてきそうな鳴子百合

登山道のかたわらでナルコユリが咲いています。茎を長く伸ばし、そこに互い違いに着いた（互生）葉の蔭に緑白色の花をたくさん並べてぶら下げています。

仲間のアマドコロとそっくり、見分けのつかない私などは茎が丸ければナルコユリ、角（稜）があればアマドコロと触って区別しています。（ユリ科アマドコロ属）



上 ナルコユリ

## 大峰山系・行者還岳登山記録

2009. 5. 21

(この記録は成田さんの手になるものです。ご本人の了承を得てここに掲載させていただきます)

参加者 松尾(リーダー) 河島 松下 澤木(以上男性) 吉川 成田(以上女性)

5時00分 葛城市當麻庁舎集合・出発

6時35分 行者還トンネル西口(登山口)着 ここまでの道中の新緑が見事  
登山準備をして出発

いきなり急登、長い、長いロープが設置されている。「ゆっくり、ゆっくりね」と、何度もリーダーから声がかかる。二上山の守り神?の松下さん、河島さんは足取りが軽い、写真家の澤木さんも軽やかに登っておられる。シャクナゲの淡いピンクがうれしい。足元にはタニギキョウもみられる。

7時44分 奥駈道に合流

そこには、倒れた大木から13本の立派な木が育っている。稜線をたどる奥駈道には、シロヤシオ(五葉ツツジ)の古木が両側に今まっさかり、あざやかな緑の葉と純白の花、シロヤシオの花道 or 花のトンネルをたどる、もう疲れはない、ヤマシャクヤクが一面に群生している。まん丸のつぼみをつけているのや、少し開きかけているのもあって、しばし見とれる。

みんな大喜び、澤木さんは撮影に、しゃがんだり、寝転がったり忙しい。

花はまだだが、クサタチバナ(みかんの匂いがする)の群生のところにはトリカブトが侵入して押され気味、バイケイソウも群生していて「この毒草は鹿も食べないから増えている」とリーダーの説。

右手に大台、左手に弥山の展望も素晴らしく、ジュウイチ、シジウガラ、キツツキの声を聞きながらの快適な奥駈道でした。

9時00分 小屋(行者還小屋) 休憩

また急登 梯子あり、ロープあり、少しの間だけどきつい。そんな中で吉川さんギンリョウソウの蕾を見つける、目がいい、余裕かな?

9時44分 行者還岳(1546m)到着

シャクナゲの色いちだんと鮮やかに咲き乱れている。

シャクナゲに囲まれて、昼食

10時20分 同じ道を下山

12時47分 登山口到着、急坂下りも滑らず、転ばず、あー良かった。

温泉に入る予定でしたがお休みなので一路帰途につく。

15時45分 當麻庁舎到着

(他に見つけた花 マムシ草、ヒメレンゲ、ミヤマカタバミ、ハルトラノオ、これから咲くフタリシズカ、ヒトリシズカ、オオカメノキ)

記 成田